



介護職員初任者研修の目的とは、心身に障害のある方や高齢者などの基本的な介護業務を行うことができるよう、介護職として最低限の知識・技術を習得することです。

法人情報

法人名称	北海道石狩翔陽高等学校
住所	北海道石狩市花川東128番地31
郵便番号	〒061-3248
TEL	(0133)74-5771, 5772
FAX	(0133)74-8741
URL	http://www.ishikarishoyo.hokkaido-c.ed.jp
代表者氏名	校長 吉村教賢
研修事業担当部署	生活・福祉系列 看護・福祉科
研修課程編成責任者	看護・福祉科主任 佐藤由香里

1 学則

2 研修の概要

3 研修カリキュラム

4 講師一覧

5 研修施設・設備

6 過去の実績

7 連絡先

資料の請求やお問い合わせは上記までご連絡ください。



学 則

1 研修の目的

高齢者の増大かつ多様化する介護ニーズに対応した、適切なサービスを提供するため、本校生徒を対象に、専門性の高い介護の知識及び技術を教授し、介護職員の養成を図る。

2 研修の名称

北海道石狩翔陽高等学校 介護職員初任者研修事業

3 研修の要旨

事業所の所在地	研修形態	修業年限	研修期間	定員（人）	受講料（円）	受講対象者
石狩市	平日 昼間	1年 6カ月	1年 6カ月	24	なし	在校生 (生活・福祉系列科目履修修得者)

研修会場 1：北海道石狩翔陽高等学校 石狩市花川東 128-31

4 受講手続

(1) 募集時期

前年度の4月(入学時)から研修内容の案内をし、7月から科目選択を開始、11月末に締め切る。翌年4月より研修を開始する。

5 カリキュラム

別紙1

6 主要テキスト

介護職員初任者研修テキスト 中央法規出版

7 修了認定

(1) 出欠の確認方法

講義・演習については毎授業開始前に出欠確認を行う。
各項目ごとに出席簿を作成し管理する。

遅刻・早退については、本講教務規定に準じ、授業出席時間が40分を満たない場合は欠席とみなし補講の対象とする。

(2) 成績の評定方法

定期考査や科目ごとのレポートや確認テストならびに科目9での実技確認テストと平常点(授業の取り組み状況等)を総合的に5段階評価し、評定3以上を認定する。3未満は認定しない。

(3) 修了の認定方法

研修科目のすべてに出席しなければならない。

修了評価筆記試験と修了評価実技試験を行いそれぞれにおいて6割以上の正答を合格基準とする。

合格基準に達するまで補講を行い、再試験における再評価を行う。

(4) 修了証明書

修了が認定された者には別紙5の修了証明書を交付する。

再発行については、毀損、亡失または氏名の変更があった場合等で修了者からの再発行の申請があった場合、公的証明書の提出により本人であることの確認の上、修了証明書を発行する。

8 補講の取扱い

(1) 補講の対象者

授業を欠席した者

(2) 受講費用

徴収しない

(3) 補講方法

同一内容の講義・演習を別の日に新たに設定し、個別の対応で行う。
出席簿に補講の実施日時、内容等を記載し管理する

- 9 退学規定 受講者が退学しようとするときは、本校の教務規定に基づくものとする。
＜本校教務規定＞
第 47 条 退学については次のとおりとする。
(1) 家庭の事情その他やむを得ない理由により退学しようとするときは、
所定の退学願を提出し、許可を得なければならない。
(2) 担任は当該生徒の指導経過報告書及び生徒指導要録を添えて教務に提出する。
(3) 退学にかかわる事務的処理は別に定める。

10 講師 添付 3 号様式

- 11 その他
研修科目に関する学習は、本校 2 年総合選択科目「介護実践Ⅰ（5 単位）」及び「介護実践Ⅱ（4 単位）」、3 年総合選択科目「介護実践Ⅲ（4 単位）」の授業時間内に介護職員初任者研修カリキュラム科目を行う。

附 則

この学則は平成 25 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

平成 29 年 3 月 13 日、一部改正する。この改正後の学則の規定は、平成 29 年 4 月 1 日より適用する。

附 則

令和 3 年 4 月 1 日、一部改正する。この改正後の学則の規定は、令和 3 年 4 月 1 日より適用する。

研修の概要

(1)	対象	本校生活・福祉系列の「介護実践Ⅰ～Ⅲ」選択者であり、定員は24名です。
(2)	研修のスケジュール 期間・日程・時間数	研修期間：4月～翌年9月末まで 時間はカリキュラム参照
(3)	定員	24名
(4)	指導者数	7名
(5)	募集時期	前年度の4月(入学時)から研修内容の案内をし、7月から科目選択を開始、11月末に締め切る。
(6)	申し込み	科目選択(介護実践Ⅰ～Ⅲの選択)を介護職員初任者研修の申し込みとする。
(7)	費用	テキスト(5,500円)は規定するものを書店にて個人購入します。
(8)	留意事項	本校の介護職員初任者研修は、本校生のみを対象としています。そのため、一般の方の申込は受け付けておりませんので、ご理解下さい。今後とも、本校教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。資料の請求やお問い合わせ等は下記までご連絡ください。

研修カリキュラム

【科目と時間数】

(1) 科目及び研修時間は、次の表に掲げるとおりとする。

1. 職務の理解（400分）

○到達目標・評価の基準 研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスと理解	150	【講義】 ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）とそれ以外（障害者（児）サービス等）について理解する。 【演習】 ・地域にある様々なサービスや施設をあげ、介護保険によるサービスか、居宅サービスか施設サービスかに分類する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	250	【講義】 ・多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。講師による講義の他、様々な働く現場について視聴覚教材を活用して理解を深める。 ・ケアプランに始まるサービス提供にいたるまでの一連の流れ、チームアプローチ、他職種との連携、地域社会資源との連携等、介護サービスの提供についてイメージを持たせる。 【演習】 ・将来、介護従事者として働くとした場合、どのような現場でどのような支援をしたいか考え発表する。
合計	400分	
○評価の方法 ・筆記試験による評価は行わない。 ・課題レポートに研修内容をまとめる。		

2, 介護における尊厳の保持・自立支援 (550分)

○到達目標

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。

○評価の基準

- ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。
- ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	300	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点(ICF、QOL、ノーマライゼーション)について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護のある場面におけるQOLの具体例について各自で考え発表する。 ・権利侵害の事例を読み、どのような支援があるかをグループで話し合い、発表する。
②自立に向けた介護	250	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討事例を示し、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアについて各自で考え、発表する。
合計	550分	

○評価の方法

- ・確認テストもしくは課題レポート
- ・修了筆記試験、定期考査

3, 介護の基本 (500分)

- 到達目標
- ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
 - ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。
- 評価の基準
- ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
 - ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
 - ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
 - ・生活支援の場では会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
 - ・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	150	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴(施設と在宅の違い、地域包括ケアの方向性など)を学ぶ。 ・介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを学ぶ。 ・多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討事例を示しそれぞれの職種のかかわり方を考え発表する。
②介護職の職業倫理	100	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が持つべき職業倫理を学ぶ。 ・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護従事者に求められる態度について各自で考え、発表する。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	100	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。 ・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護従事者が事故を起こしやすいのはどのようなときかグループで検討しまとめる。

④介護職の安全	150	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の特徴を踏まえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。 ・介護職に起こりやすいところと身体の病気や障害について学ぶ。 ・介護職自身の健康管理の方法(病気や障害の予防と対策)について学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身がインフルエンザに罹患しないためにはどうしたらよいか調べまとめる。 ・石けんと水道の流水で、泡をよくたてて、2分間以上ていねいに手をあらう。 ・どのような姿勢が腰部に負担がかからないか体験し、腰痛予防のための福祉用具について体験学習する。
合計	500分	
<p>○評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストもしくは課題レポート ・修了筆記試験、定期考査 		

4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（600分）

- 到達目標
介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
- 評価の基準
- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
 - ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。
 - ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
 - ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
 - ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	200	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が暮らす世帯の特徴から、どのような問題があるか考える。 ・事例を示し、グループに分かれケアプランを作成し発表する。
②医療との連携とリハビリテーション	200	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 ・在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 ・リハビリテーションの理念と考え方について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を示し、介護職と看護職それぞれの立場の違いを理解し、医療との連携について話し合う。
③障害者総合支援制度およびその他制度	200	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度における障がいの概念について、その歩みを踏まえて学ぶ。 ・障害者総合支援制度の基本的なしくみについて理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を示し、在宅で生活するために必要なサービスを選ぶ。
合計	600分	

- 評価の方法
- ・確認テストもしくは課題レポート
 - ・修了筆記試験、定期考査

5. 介護におけるコミュニケーション技術（400分）

○到達目標

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

○評価の基準

- ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	200	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。
②介護におけるチームのコミュニケーション	200	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法を学ぶ。 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討事例を示し、専門職による視点の違いを理解する。利用者にとってどうすることが最も有効であるか、よい方法であるかを、それぞれの立場で話し合う。
合計	400分	

○評価の方法

- ・確認テストもしくは課題レポート
- ・修了筆記試験、定期考査

6, 老化の理解 (400分)

○到達目標

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

○評価の基準

・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	200	【講義】 ・老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。 【演習】 ・高齢に伴う心身の変化とは何か考え、発表する。
②高齢者と健康	200	【講義】 ・高齢者に多く見られる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気を抱える高齢者の生活上の留意点について理解する。 【演習】 ・高齢者の病気に関する視聴覚教材を用い、ワークシートにまとめながら視聴する。
合計	400	

○評価の方法

- ・確認テストもしくは課題レポート
- ・修了筆記試験、定期考査

7, 認知症の理解(500分)

○到達目標

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

○評価の基準

- ・ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・ 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状（B P S D）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ・ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ・ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
- ・ 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
- ・ 家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	100	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・ 問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・ できないことではなく、できることをみて支援することを理解する。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の方やそのご家族が出演する視聴教材を用い、認知症の方の思いやそのご家族の思いを理解する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	200	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ・ 認知症に類似した症状を持つ疾病について学ぶ。 ・ アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の違いをまとめ、どのような支援が必要かグループにわかれ話し合う。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	100	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 ・ 認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 ・ 病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。 【演習】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例を示し、利用者の尊厳を守り、本人の気持ちに沿ったかわり方を理解する。

④家族への支援	100	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 ・家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症患者の家族のレスパイトケアにはどのようなものが考えられるかグループに分かれ話し合い発表する。
合計	500分	
<p>○評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストもしくは課題レポート ・修了筆記試験、定期考査 		

8, 障害の理解(300分)

○到達目標
 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

○評価の基準
 ・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	100	【講義】 ・「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。 ・国際生活機能分類(ICF)に基づきながら、「障害」の概念について理解する。 ・障害者福祉の基本理念(ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン)について理解する。 【演習】 ・乙武洋匡著「五体不満足」を読み、各自の障がい観をまとめ、発表する。
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	100	【講義】 ・障害の原因となる主な疾患を理解する。 ・障害を伴う心理的影響、障害の受容を理解する。 ・障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。 【演習】 ・さまざまな障害を持った方の視聴覚教材を用い、その方々の思いや障害の特性について理解する。
③家族の心理、かかわり支援の理解	100	【講義】 ・家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。 ・わが国に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ。 【演習】 ・障害児の親の手記を読み、障害の受容過程や子どもへの思いを理解する。もし、我が子が障害をもったとしたらどう対応するか、グループで話し合う。
合計	300分	

○評価の方法
 ・確認テストもしくは課題レポート
 ・修了筆記試験、定期考査

9, こころとからだのしくみと生活支援技術 (4, 750分)

○到達目標

- ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

○評価の基準

- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

	項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
I 基本 知識 の 学習	① 介護の基本的な考え方	150	<p>【講義】 「介護」が理論的・法的にどのような変遷をたどってきたかについて講師により講義する。具体例をあげながら理解を深める。 法的・科学的根拠のある介護の大切さや、我流介護の危険性について理解する。</p> <p>【演習】高齢者の生活がイメージできるように視聴覚教材を活用して理解を深め、高齢者の生活とICFの視点に基づく生活支援の大切さをワークシートに記入しながらまとめる。</p>
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	150	<p>【講義】学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する。感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する。自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的な知識を理解する。</p> <p>【演習】人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて考える方法についてグループディスカッションを行い、考えをまとめる。</p>

	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	400	<p>【講義】骨や関節など、身体の動きのメカニズムを理解する。神経の種類と、そのはたらきを理解する。眼や耳や、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する。</p> <p>【演習】利用者の様子の普段との違いに気付くにはどのような観察点があるか考え、グループディカッションを行い考えをまとめる。</p>
○評価の方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストもしくは課題レポート ・修了筆記試験、定期考査 			
Ⅱ生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	200	<p>【講義】生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。家事援助とは何かについて具体的理解する。</p> <p>【演習】調理や掃除の実習をし、自分の考えや方法について発表する中で多様な生活習慣や価値観があることや基本的原則について確認する。</p>
	⑤快適な居住環境整備と介護	200	<p>【講義】安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。高齢者や障害のある人が生活するなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。</p> <p>【演習】グループで家庭内に多い事故について考えられることを挙げ、現在暮らす家では、高齢者にとってどのような点が暮らしにくいと考え、事故を防ぐための方法についてグループディスカッションする。高齢者や障害のある方の身体状況に合わせた福祉用具とは何かグループで考え発表する。</p>
	⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	500	<p>【講義】整容の必要性と、整容に関連するところとからだのしくみを理解する。</p> <p>【演習】衣服着脱の介護について、基礎的な一部または全介助の演習を行う。具体的な事例を通して身体状況（麻痺の有無等）に合わせた支援方法についてグループで考え発表する。</p>
	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	600	<p>【講義】移動・以上の必要性と、移動・移乗に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。</p> <p>【演習】車いすや歩行の介護について、基礎的な一部または全介助の演習を行う。具体的な事例を通して身体状況（麻痺の有無等）に合わせた支援方法についてグループで考え発表する。</p>

<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>400</p>	<p>【講義】食事の必要性と、食事に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける。心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。</p> <p>【演習】食事の介護について、基礎的な一部または全介助の演習を行う。事例を提示し、食事を食べる援助をするなかで、どのように援助してもらおうとおいしく食べられるのか考え、グループで考え発表する。また、誤嚥性肺炎が起こらないような体位について考え、発表する。</p>
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>600</p>	<p>【講義】入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活かし、楽しい入浴の介護を行うために技術を身につける。心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。入浴に係る事故防止のための観察点や方法について理解する。</p> <p>【演習】入浴の介護、清潔保持に関連する、基礎的な一部または全介助演習を行う。事例を提示し、羞恥心に配慮し、心地よい支援の方法について考え、発表する。</p>
<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>600</p>	<p>【講義】排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、気持ちよい排泄の介護を行うための技術を身につける。心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。</p> <p>【演習】排泄の介護について、基礎的な一部または全介助の演習を行う。事例を提示し、心身の状況や羞恥心等に配慮した排泄の援助方法を考え、グループで考え発表する。実際におむつをつけ排泄する体験をし、感じたことをまとめ発表する。</p>
<p>⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>200</p>	<p>【講義】睡眠の必要性と、睡眠に関するところとからだのしくみを理解する。心地よい安眠を支援するための知識と技術を身につける。心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。褥瘡予防の方法について理解する。睡眠薬などの使用時の注意点を理解する。</p> <p>【演習】睡眠に係る、ベッドメイキング、シーツ交換、安楽な姿勢、褥瘡予防のための体位の取り方基本的な支援について演習を行う。不眠の訴えのある方への支援方法をグループで考え発表する。</p>
<p>⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p>	<p>150</p>	<p>【講義】終末期のとらえ方を学ぶ。終末期から死までの心身機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ。</p> <p>【演習】「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考える事が出来るように視聴覚教材を活用して理解を深め、事例を提示し、本人や家族に対する援助の在り方についてグループディスカッションを行う。</p>

○評価の方法

- ・実技テストもしくは課題レポート
- ・修了筆記試験、修了評価実技試験、定期考査

Ⅲ 生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的 理解	300	<p>【講義】介護過程の目的と意義について理解する。介護過程の展開プロセスについて理解する。アプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する。</p> <p>【演習】事例を用いて、介護過程を展開するための基礎的な部分を理解し、発表する。</p>
	⑭総合生活支援技術演習（事例による展開）	300	<p>【講義】事例を通じて、利用者のこころとからだの力が発揮できない要因を分析する。事例を通じて、利用者本人にとって適切な技術支援は何か検討する。事例を通じて、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解する。</p> <p>【演習】事例の提示を提示し、こころとからだの力が発揮できない要因の分析をし、適切な支援方法についてグループディスカッションする。その支援のなかで心身の状況や介護のポイント、確認すべき点などを発表する。</p>
合計		4750分	
<p>○評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技テストもしくは課題レポート ・修了筆記試験、修了評価実技試験、定期考査 			

10, 振り返り (300分)

○到達目標・評価の基準 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
項目名	時間数 (分)	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	200	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認を促す。 ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを各自で考え発表する。 ・訪問介護の事例を示し、業務における基本的態度（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。）の視点を持ち介護を行うことを理解する。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	100	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。 ・最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるように促す。
合計	300分	
○評価の方法		
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験における評価は行わない。 ・課題レポートに研修内容を振り返りまとめ、今後の抱負を記入する。 		
全カリキュラム合計時間(分)	8,700分	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、余白に「追加」等の表示をすること。

(2) 本校における科目と内容は以下のとおりとする。

介護実践Ⅰ～Ⅲ(15単位)

高齢者や障がい者等の介護に携わる者が、業務を遂行する上で必要な知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができる介護者の養成を図る。

介護実践Ⅰ(5単位)・・・2年次で履修

介護実践Ⅱ(4単位)・・・2年次で履修

介護実践Ⅲ(4単位)・・・3年次で履修

(3) 評価の方法について

修了認定を以下の順序で行う。

- 1, 研修科目のすべてに出席しなければならない。
欠席した科目については補講が修了していること。
- 2, 各科目(科目9は除く)ごとに、確認テスト、もしくは課題レポートを実施し、評価基準を満たしていないと判断した場合は、基準に達するまで補講を行う。
- 3, 科目9については、Ⅱ, 生活支援技術の項目⑥から⑩に関して、項目ごとに事例を用いた実技確認テストもしくは発表を行い、評価基準を満たしていないと判断した場合は、基準に達するまで補講を行う。
また、科目9のⅢ, 生活支援技術演習の項目⑭に関しては事例を提示し、各自で技術の検討を行い、支援技術の発表を行う。内容が評価基準を満たしていないと判断した場合は、基準に達するまで補講を行う。
- 4, 各定期考査において、その都度知識の確認を行う。正答が6割に達するまで追試を行う。
- 5, 全科目修了時に、修了評価筆記試験と修了評価実技試験を行いそれぞれにおいて6割以上の正答を合格基準とする。また、筆記試験においては、各項目ごとに正答がなければ合格としない。合格基準に達するまで補講を行い、再試験における再評価を行う。

講師一覧

講師名	A	専任	北海道石狩翔陽高等学校教諭
資格名	看護師、養護教諭一種免許状、高等学校教諭特別免許状		
担当教科	6, 老化の理解 ②高齢者と健康 7, 認知症の理解 ②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 8, 障害の理解 ① 障害の基礎的理解 ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		

講師名	B	専任	北海道石狩翔陽高等学校教諭
資格名	社会福祉士 高1種免許公民、高1種免許福祉、中1種免許社会、養護学校教諭1種		
担当教科	1, 職務の理解 2, 介護における尊厳の保持・自立支援 3, 介護の基本 4, 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 5, 介護におけるコミュニケーション技術 6, 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 7, 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援 8, 障害の理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解 9, こころとからだのしくみと生活支援技術 10, 振り返り		

講師名	C	専任	北海道石狩翔陽高等学校教諭
資格名	ホームヘルパー2級、高1種免許家庭、高1種免許福祉、中1種免許家庭		
担当教科	1, 職務の理解 2, 介護における尊厳の保持・自立支援 3, 介護の基本 4, 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 5, 介護におけるコミュニケーション技術 6, 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 7, 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援 8, 障害の理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解 9, こころとからだのしくみと生活支援技術 10, 振り返り		

講師名	D	専任	北海道石狩翔陽高等学校教諭
資格名	ホームヘルパー2級、社会福祉士 高1種免許家庭、高1種免許福祉、中1種免許家庭		
担当教科	1, 職務の理解 2, 介護における尊厳の保持・自立支援 3, 介護の基本 4, 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 5, 介護におけるコミュニケーション技術 6, 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 7, 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援 8, 障害の理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解 9, こころとからだのしくみと生活支援技術 10, 振り返り		

講師名	E	講師	北海道石狩翔陽高等学校講師
資格名	介護福祉士、介護支援専門員		
担当教科	1, 職務の理解 2, 介護における尊厳の保持・自立支援 3, 介護の基本 4, 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 ①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度 5, 介護におけるコミュニケーション技術 6, 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 7, 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援 8, 障害の理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解 9, こころとからだのしくみと生活支援技術 10, 振り返り		

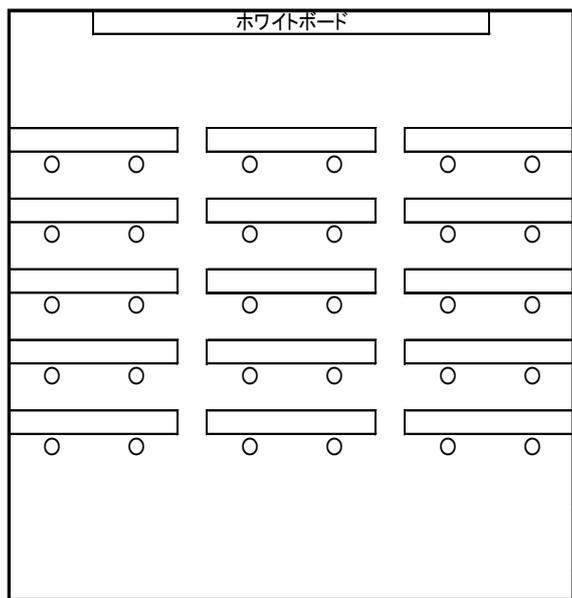
講師名	F	講師	北海道石狩翔陽高等学校講師
資格名	介護福祉士、介護教員講習会修了		
担当教科	1, 職務の理解 2, 介護における尊厳の保持・自立支援 3, 介護の基本 4, 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 ①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度 5, 介護におけるコミュニケーション技術 6, 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 7, 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援 8, 障害の理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解 9, こころとからだのしくみと生活支援技術 10, 振り返り		

講師名	G	講師	北海道石狩翔陽高等学校講師
資格名	介護福祉士、社会福祉主事任用、同行援護従業者、全身性障害者移動介護従業者		
担当教科	1, 職務の理解 2, 介護における尊厳の保持・自立支援 3, 介護の基本 4, 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 ①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度 5, 介護におけるコミュニケーション技術 6, 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 7, 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援 8, 障害の理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解 9, こころとからだのしくみと生活支援技術 10, 振り返り		

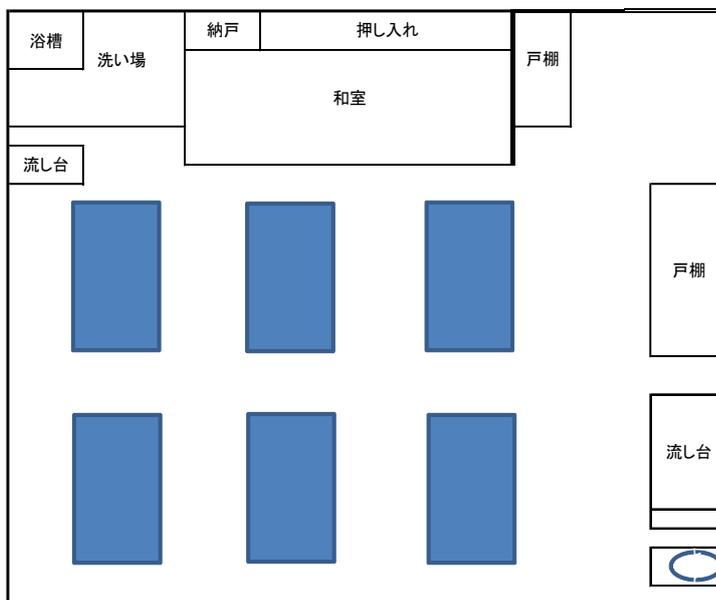
研修施設・設備

本校 研修会場

研修会場①家庭経営室(室内面積73.8㎡、一人あたり利用可能面積3㎡)1講座最大24名



研修会場②介護実習室(室内面積175.3㎡、一人あたり利用可能面積7.3㎡)1講座最大24名



本校 実技演習使用備品

実技演習使用備品一覧表

備品名	購入レンタルの別	合計台数	備品名	購入レンタルの別	合計台数
① ベッド	購入	6	⑧ 歩行器	購入	1
② オーバーテーブル	購入	6	⑨ ストレッチャー	購入	1
③ いす	購入	6	⑩ ポータブルトイレ	購入	6
④ ホワイトボード	購入	2	⑪ 便器	購入	6
⑤ 車いす	購入	6	⑫ 尿器	購入	6
⑥ 杖 (一本杖、・多点杖・ウォーカーゲイン)	購入	各1	⑬ マネキン	購入	1
⑦ 白杖	購入	6			

その他の物品一覧表

備品名	数	備品名	数
① 紙おむつ	48人分	⑥ 割りばし	48人分
② 使い捨て手袋	48人分	⑦ ティッシュペーパー	20箱
③ 紙の皿・器・コップ	48人分	⑧ タオル類	20
④ スプーン・フォーク	48人分	⑨ 洗剤類	一式
⑤ ストロー	48人分	⑩ 防水シート	6

過去の実績

過去の修了人数（人）	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
		5	9	6	4
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
	4	10	11	9	11
	R5年度	R6年度	R7年度		
	9	6	7		

連絡先

本校の介護職員初任者研修は、本校生のみを対象としています。

そのため、一般の方の申込は受け付けておりませんので、ご理解下さい。

今後とも、本校教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

資料の請求やお問い合わせ等は下記までご連絡ください。

法人名称	北海道石狩翔陽高等学校
住所	北海道石狩市花川東128番地31
郵便番号	〒061-3248
TEL	(0133)74-5771, 5772
FAX	(0133)74-8741
URL	http://www.ishikarishoyo.hokkaido-c.ed.jp
代表者氏名	校長 吉村教賢
研修事業担当部署	ライフサポート（健康福祉系）系列 看護・福祉科
研修課程編成責任者	看護・福祉科主任 佐藤由香里